

映画文化の美術教育的レジリエンス ～映像メディア表現の力と可能性～

優美に広がる安達太良山を背景に「2018年度リサーチフォーラム in 福島」を開催します。本フォーラムでは、映像メディア表現が持つ可能性として、「ヴァルネラビリティ（脆弱性）」からの「レジリエンス（回復）」のプロセスをテーマに据えます。特に、戦後の厳しい環境から教育力を回復した事例として「本宮方式映画教室運動」を取り上げ、未来の美術教育へ繋げます。

9月15日（土）（14：10～15：30）サンライズもとみや

【研究発表】

「社会に開かれた教育としての本宮方式映画教室運動」

柳沼宏寿（新潟大学教授）

「小学校時代における本宮方式映画教室運動の思い出と映画文化の継承」

佐藤昌彦（北海道教育大学教授）

「映画『絵を描く子どもたち』のスク립トから見えるもの

—ビジュアル・カルチャー時代の映像＝授業批評力の育成—

山木朝彦（鳴門教育大学教授）

「映画と美術教育」

宮脇 理（元・筑波大学教授）

【トークセッション】

パネラー：千葉茂樹（日本映画大学特任教授） 本田裕之（本宮の映画文化を継承する会代表）

渡邊晃一（福島大学教授） 宮脇 理

コーディネーター：柳沼宏寿

本フォーラムは、9月15日（土）16日（日）の二日間に渡り開催される「第6回カナリヤ映画祭」（本宮の映画文化を継承する会主催）との共催として第一日目に設定しました。フォーラム前後には、テーマとも関連の深い三つの企画が設定されています。

カナリヤ映画祭企画（第一日目）

11:00～12:00 【本宮映画劇場（定舞台）見学】

大正3年築でモダンな様式の概観と当時のままの内部は、まるでタイムスリップしたかのような映画館。昭和初期のフィルムをカーボン式映写機で上映します。ここから参加できる方は11時に本宮駅前に集合してください。

13:00～14:00 【第2回 GCL 国際ジュニア映画祭 in 本宮】

子どもの制作した映画の国際交流を目指した映画祭「グローバル・シネテラシー」の第2回目、本宮版です。

14:10～15:30 【美術科教育学会リサーチフォーラム】

上記の研究発表とトークセッション。

15:40～17:10 【映画上映『こころの山脈』】

本宮小学校の母親らが中心となった「青いえんぴつの会」が、商業ベースに偏っていた当時の映画文化に対して「子どもに見せるための映画を自分らの手で」と立ち上がり、草の根的活動で資金を調達し製作した映画です。

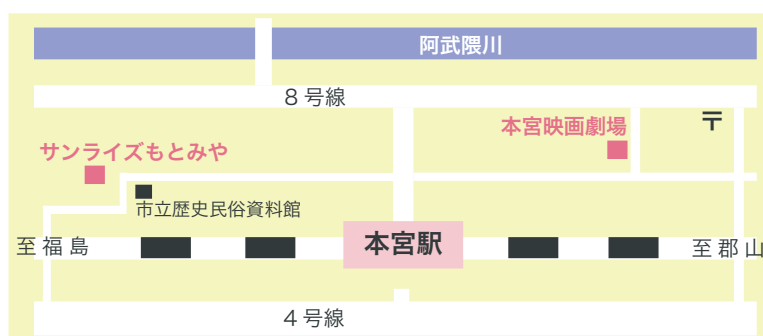


「本宮映画劇場（定舞台）」



映画『こころの山脈』（1966年）

監督 吉村公三郎
脚本 千葉茂樹
製作 本宮方式映画製作の会
製作協力 新藤兼人、能登節雄
出演 宇野重吉、山岡久乃、吉行和子、本宮小学校四・五年生、本宮第一中学校三年生、本宮高校二年生、本宮町民、他



主催：美術科教育学会 共催：本宮の映画文化を継承する会

場所：サンライズもとみや（福島県本宮市本宮矢来 39-1）＊駐車場あり
参加料：無料

問い合わせ：新潟大学 柳沼研究室 TEL：090-3595-8793

E-mail：yaginuma@ed.niigata-u.ac.jp